

平成 29年度 山口県立西市高等学校 学校評価書 校長(小松 啓二)

1 学校教育目標	
○ 教育方針	・ ・ ・ ・ ・ 質実剛健の校訓の下、社会的・職業的自立に向けて、社会の一員として求められる意識や態度及び豊かな人間性を備えた生徒を育成する。
○ 教育目標	・ ・ ・ ・ ・ 1 相手の感情や気持ちを受容し、思いやりをもって接する態度を育む ・ ・ ・ ・ ・ 協 感 2 学び合い、伝え合う学習活動をととして、学ぶ意欲の高揚を図る ・ ・ ・ ・ ・ 協 学 3 何事にも、仲間と共に協力し取り組む姿勢や態度を育成する ・ ・ ・ ・ ・ 協 働
○ 重点目標	・ ・ ・ ・ ・ 1 規範意識と豊かな人間性を育てる教育の推進 2 生徒の実態に即した学習活動及び資格取得の推進 3 地域と連携し、地域に貢献する開かれた学校づくりの推進とキャリア教育の充実

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
[学校運営]	・教育方針やビジョンを生徒・保護者・地域に積極的に発信した。今後、「地域に愛され地域とともにある学校づくり」を推進して、県内定住の促進と志願者数確保に結びつける。
[学習指導]	・研究授業、授業評価を実施し、授業改善に取り組んだ。グループワーク、ICTを活用した授業改善が図られ、一定の成果が得られた。今後、アクティブ・ラーニングの取組をさらに進めて行く。
[生徒指導]	・生徒のやりたいを引き出し、一人ひとりの生徒が、主体的に学校生活を送れるよう努めた。教職員間において、生徒の情報交換が密に行われ、常に情報共有がなされた。今後、一人ひとりの生徒の特性等に即した、きめ細かな指導が必要となり、チームとしての生徒指導がますます重要となる。
[進路指導]	・3年間を見通したキャリア教育の推進に努めた。2年生全員によるインターンシップ実施については、大きな成果が得られた。また、基礎学力向上プロジェクトの検証・改善を行い、基礎学力定着と学力向上への取組を推進する。
[健康安全環境]	・安心・安全な学校づくりを注いだ。治癒報告については、保護者と連携し、引き続き粘り強い指導を行っていく。防火・防災訓練においては、ブラインド方式などを活用した実践的な訓練を行い、一定の成果が得られた。
[生産流通科]	・「グリーンライフ」の授業等で下関農林事務所と連携し、地域農業の見学、農林事務所職員による講義等を定期的に実施した。梨農家への援農インターンシップにおいても、大きな成果が得られた。今後、内容等の充実を図り、地域と密着した取組を進める。
[事務]	・日常点検を実施し、安心・安全な学校づくりの取組の推進が図れた。今後、日常点検における目視に力を注ぎたい。
[学年]	・基本的な生活習慣の定着に学年団で粘り強く取り組んだ。秩序と安定性のある学校生活が送れるよう努めた。また、各学年とも学習習慣の確立が不十分であり、次年度以降も継続して課題となる。
[業務改善]	・職場における望ましい環境が保たれ、教職員が温かい雰囲気業務が遂行できた。今後、日常的な業務における整理整頓、サーバー内の整理等、常に意識を持って取り組んで業務の効率化を図る。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
[学校運営]	・生産流通科の地域連携を柱に、地域連携事業に力を注ぎ、地域から期待され、理解され、協力して下さる方を増やす中で、専門科目の実践力・質の向上を図る。また、生徒の主体的なボランティア活動の充実等により地域への愛着心を育て、県内定住を促進する。学校情報も継続して発信し、学校の取組を多くの方に発信し、志願者数の増加を図る。チーム西市として教職員の協働体制をさらに強化する。
[学習指導]	・進路指導課と連携し、朝学や確認テストの内容取組を改善し、基礎学力の向上並びに学習習慣の確立を図る。また、アクティブ・ラーニングの取組を進め、授業改善を積極的に行う。県立高校再編整備計画に対応した教育課程の編成にも計画的に取り組むとともに、新テスト導入に向けた体制づくりも進める。
[生徒指導]	・全教職員の共通認識を深め、一貫した指導体制を確立し、継続して一人ひとりを大切に生徒指導を図る。問題行動の未然防止を図るとともに、早期発見・早期対応により保護者、地域に信頼される生徒指導を行う。また、研修等をととして、情報モラル、教育相談、発達障害等の特別支援教育の理解と促進を図り、教職員の資質を高める。
[進路指導]	・進路実現に向けたキャリア教育の取組の充実を図る。個人面談、進路ガイダンス、インターンシップ、講演・講話等を計画的に実施し、キャリア教育の視点から進路実現につなげる。3年間を見据えた計画的な朝学や確認テストにおいても、改善を行い、基礎学力定着を図る。また、成績上位者に対しての進学課外を充実させる。
[健康安全環境]	・校内美化や健康安全環境能力の醸成のため、委員会活動をさらに充実させる。治癒報告については、今後も保護者と連携し、生徒の健康安全に向けて指導の徹底を図る。
[生産流通科]	・地域と連携した特産物の開発を継続して行うなど、地域や関係機関等と連携した教育活動を実施する。生徒の実践力を高め、地域と連携し、地域農業の理解や地域貢献を念頭に置いた教育内容を充実する。また、進路と連携させて、資格取得の向上を図る。
[業務改善]	・職場における望ましい環境が保たれ、教職員が温かい雰囲気業務が遂行できるよう努めるとともに、日常的な業務における整理整頓、サーバー内の整理等、常に意識を持って取り組んで業務の効率化を図る。業務のスリム化を進め、代休や年休が取得しやすい環境を整備して行く。
[チャレンジ目標]	「明るく元気に」

A: 優れている B: よい C: おおむねよい D: 要改善

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	○組織的な地域連携・地域貢献の推進	・昨年度の実践を継続するとともに、学校と地域が一体となった地域貢献活動の充実を図る。	4 組織的な体験活動を実施し、生徒の成長が大きく見られた。 3 組織的な体験活動を実施し、生徒の成長が見られた。 2 組織的な体験活動を実施したが、生徒の成長があまり見られなかった。 1 組織的な体験活動を実施できず、生徒の成長がほとんど見られなかった。	4	・地域連携・地域貢献25事業、延べ259名生徒参加(1月末)、実施後のアンケート内容も良好である。生産流通科の特色を生かした活動・生徒会活動・広報部や家庭クラブの活動を通じて地域連携・地域貢献が定着してきている。	・学校全体が地域貢献の活動に積極的に参加して、成果をあげている。	A
	○学校情報発信の充実	・「西市高校だより」や学校HPのコンテンツの充実を図り、積極的な情報発信に心掛ける。 ・緊急メール配信システムを活用し、学校行事等の案内をメール送信により連絡する。	4 月1回以上、保護者向け学校だよりの発行やHPの更新、メール配信を行った。 3 学期に数回、保護者向け学校だよりの発行やHPの更新、メール配信を行った。 2 学期に1回程度、保護者向け学校だよりの発行やHPの更新、メール配信を行った。 1 緊急メール配信システムを利用した、案内メールを十分行うことができなかった。	4	・西市高校だよりを毎月発行し学校情報を保護者・地域に積極的に発信できている。2月にHPの全面改修を行い即時性のある情報発信が可能となった。 ・緊急メール配信を活用した生徒・保護者への注意喚起及び諸連絡を行った。	・西市高校だより等で学校行事での様子がよく分かった。また、HPの改修によりタイムリーな情報発信がなされている。	
学習指導	○基礎学力の充実	・基礎力タイムを設定し、基礎学力の向上を図ると共に、落ちついて学習に取り組む習慣を身につけさせる。	4 落ちついて学習に取り組む習慣が十分身についた。 3 落ちついて学習に取り組む習慣がある程度身についた。 2 落ちついて学習に取り組む習慣があまり身につかなかった。 1 落ちついて学習に取り組む習慣がまったく身につかなかった。	3	・基礎力タイムの取組は定着してきているが、それが授業への取り組みに繋がるのはもう少し時間が掛かりそうである。	・引き続き基礎学力をしっかり身につけさせる取組を継続してほしい。	B
	○「分かる授業」の展開	・他校の教員、保護者や地域の方を対象とした授業公開を実施する。 ・わかる授業が展開できるように教員間での授業参観を実施する。	4 教員の相互授業参観が80%以上行われた。 3 教員の相互授業参観が70%以上行われた。 2 教員の相互授業参観が60%以上行われた。 1 教員の相互授業参観が60%未満であった。	4	・1学期と2学期にそれぞれ相互授業参観の機会を設けた。その中で、多くの教員が授業参観を行っている。	・「分かる授業」の実施に向けて引き続き授業改善に努めてほしい。	

生徒指導	○基本的な生活習慣の確立	・朝、教員2名による正門立哨を行う。 ・年間4回の服装検査を行う。 ・授業や様々な学校生活の場面で生活指導を行う。 ・「Being」を使って規範意識の向上を図る。	4 身だしなみやあいさつができていない生徒が90%以上であった。 3 身だしなみやあいさつができていない生徒が80%以上であった。 2 身だしなみやあいさつができていない生徒が70%以上であった。 1 身だしなみやあいさつができていない生徒が70%未満であった。	2	・正門での指導を含め、様々な場面で指導を行い徐々に浸透しつつあるが、改善されるまでに時間を要する生徒が増えた。粘り強く指導を繰り返していきたい。	・基本的な生活習慣を身に付けさせることは重要である。引き続き粘り強く生徒を指導してほしい。
	○問題行動の早期発見と防止	・全校集会等で、学校内・外生活の西市高校生としての自覚を促す。 ・日頃から学校内外の生徒の言動、服装等に注意を払い、教員間で生徒の情報を共有し適切な指導を行う。 ・保護者、地域との連携を図る。	4 生徒に関する情報交換・共有が十分行えた。 3 生徒に関する情報交換・共有がある程度行えた。 2 生徒に関する情報交換・共有があまり行えなかった。 1 生徒に関する情報交換・共有がまったく行えなかった。	4	・学校生活を落ち着いて送れるよう全校集会を開き注意喚起を行った。 ・職員会議、教育相談委員会等での情報交換だけでなく日頃から職員間で積極的な情報交換が行われている。	・登下校時に地域の方々から自ら進んで挨拶ができる生徒を多く育ててほしい。 ・地域の方々には西市高校の生徒を常に見ている。地域社会の中で生活しているという感覚をもって節度ある行動がとれる生徒を多く育ててほしい。
	○教育相談の充実	・各種アンケート(いじめ、Fit等)を各学期に実施し、早期の実態把握に努める。 ・教育相談週間を1、2学期に実施し担任による個人面談を行う。 ・教育相談だよりを定期的に発行する。	4 アンケート等効果的に実施でき、教育相談の充実が図れた。 3 アンケート等効果的に実施でき、教育相談の充実がある程度図られた。 2 アンケート等あまり効果的に実施できず、教育相談も十分機能しなかった。 1 教育相談の効果がまったく見られなかった。	4	・アンケートからの情報をもとに教育相談部・学年・担任で対応し実態の把握に努めた。 ・職員会議、教育相談委員会等での情報交換だけでなく教職員・生徒からの情報により対応している。	・各学期にアンケートを実施して、早期実態把握に努めている。 ・体育祭、文化祭等の学校行事において、もっと生徒の「やりたい」を引き出せる働きかけを期待する。
	○学校行事の充実と生徒の主体的な活動の推進	・新入生の積極的な部活動加入へ指導や奨励をする。 ・体育祭、文化祭等の学校行事に対し生徒が主体的に取り組むように指導する。	4 主要行事の生徒満足度が90%以上であった。 3 主要行事の生徒満足度が80%以上であった。 2 主要行事の生徒満足度が70%以上であった。 1 主要行事の生徒満足度が70%未満であった。	3	・7月のクラスマッチ、9月の体育祭11月の文化祭では積極的に取り組む姿が見られたが、実施後の満足度は高くなかった。	・部活動の活性化に向け地域からの支援をもう少し活発にしなければよい。
進路指導	○卒業予定者全員の早期進路の確定	・早い時期から、生徒、保護者に適切な情報を提供し、積極的に働きかけることにより、主体的な進路決定を支援する。 ・進路希望調査をもとに積極的に企業訪問等を行い、生徒の進路希望をかなえる努力をする。	4 年内に全員の進路が確定した。 3 年内に進路が確定しなかった者が1人いた。 2 年内に進路が確定しなかった者が2人いた。 1 年内に進路が確定しなかった者が3人以上いた。	4	・就職については、大企業にやや苦戦したが、2次応募にも積極的に、好結果に繋がった。進学については全員が第一志望の学校に進学することが決定した。	・早い時期から計画的に進路希望調査等を実施しており、取組の成果があらわれている。
	○学力の伸長と基礎学力の底上げ	・進路に応じて、課外や、資格取得に積極的に取り組ませ、卒業時には全員が何らかの資格を取得できるようにする。 ・3年間を通して、計画的に、就職試験に対応できる基礎学力を養成する。	4 卒業時には全員が、何らかの資格を取得した。 3 卒業時の資格取得率が9割以上であった。 2 卒業時の資格取得率が8割以上であった。 1 卒業時の資格取得率が8割を切った。	3	・現時点で3年生のうち数名が資格を取得できていない。進路が決まってきた時間を有意義に使うためにも、最後まで資格取得を奨励していきたい。	・生徒全員の進路確定については、大きな成果である。 ・今後も進路に応じた資格取得への指導等をお願いしたい。
	○キャリア教育の推進	・3年間を見通してキャリア教育を推進し、インターンシップ、ボランティア活動を通して、適切な職業観を育成する。	4 生徒全員がインターンシップ、ボランティア活動に参加した。 3 インターンシップ、ボランティア活動へ9割以上の生徒が参加した。 2 インターンシップ、ボランティア活動へ8割以上の生徒が参加した。 1 インターンシップ、ボランティア活動への参加者が8割未満であった。	3	・インターンシップでは実施できない生徒が出るなど、残念な部分があった。今後、事前指導を充実させるなど改善に努めていく。さらに年度末に向けて、ボランティアへの積極参加を呼びかけていきたい。	・キャリア教育の充実を図っていることは評価できる。インターンシップの事前・事後指導を充実させて取組の効果を確実なものにしてほしい。
健康安全	○自主的に健康管理のできる生徒の育成	・定期健康診断の受診勧告の徹底と保健指導に充実を図る。 ・生徒保健委員会を充実させる。	4 受診勧告生徒の受診率が70%以上であった。 3 受診勧告生徒の受診率が60%以上であった。 2 受診勧告生徒の受診率が50%以上であった。 1 受診勧告生徒の受診率が50%未満であった。	1	・要受診者へ受診勧告4回、保護者へ夏休み休業中の保護者懇談時に担任から直接通知したが、受診率(受診勧告書提出率)は23.7%である。保護者へ直接通知する手段(HIPの利用、保護者宛封書等)を工夫し、家庭の協力を得ながら指導を続けていきたい。	・定期健康診断の結果、要受診となった者へ4回も受診勧告を行っても受診率が向上しないのが残念だ。生徒・保護者の意識改革に向け、今後も引き続き指導等をお願いしたい。
	○安全な環境について考え、実践する力の育成	・教室内等の日常点検を徹底する。 ・生徒保健委員会の活動を充実させる。	4 70%以上の生徒が教室内等の良好な環境に関する意識が高まった。 3 60%以上の生徒が教室内等の良好な環境に関する意識が高まった。 2 50%以上の生徒が教室内等の良好な環境に関する意識が高まった。 1 50%未満の生徒が教室内等の良好な環境に関する意識が高まらなかった。	3	・保健委員による教室の日常点検を通して、意識が高まってきたが、今後も点検がマンネリ化するごなく正しくチェックできているか確認するとともに、教室内の整理整頓にも意識を高めていきたい。	・防災学習は継続して、毎年行うとよい。
	○安全管理の推進	・実践的な防災訓練の実施 ・安全点検を年3回実施し、事後処置も適切に行う。	4 教員、生徒の防災に対する危機意識が十分向上した。 3 教員、生徒の防災に対する危機意識がある程度向上した。 2 教員、生徒の防災に対する危機意識があまり向上しなかった。 1 教員、生徒の防災に対する危機意識がまったく向上しなかった。	3	・避難訓練において全校生徒に避難経路を示し、確認を行った。2学期はプリントによる避難訓練を実施し、危機意識が向上した。	
生産流通科	○地域連携事業の充実	・生産流通科生徒の地域連携にかかわる機会を多く設ける。	4 生産流通科で地域連携事業を15回以上設けることができた。 3 生産流通科で地域連携事業を13回以上設けることができた。 2 生産流通科で地域連携事業を11回以上設けることができた。 1 生産流通科で地域連携事業を10回以上設けることができた。	4	・現在20回の地域連携事業を実施している。計画されたものはすべて実施され、地域の評価も高く、生徒の学習の定着にもつながっている。 ・今後、残りの計画も実施していきたい。	・地域の方々や触れ合う機会も多く、よい体験ができています。どんどん発展させて行ってほしい。 ・梨の袋かけ体験はとてもよい。
	○資格取得の推進	・生産流通科生徒の資格取得率を向上させる。	4 1つ以上の資格を持つ生徒が80%以上であった。 3 1つ以上の資格を持つ生徒が70%以上であった。 2 1つ以上の資格を持つ生徒が60%以上であった。 1 1つ以上の資格を持つ生徒が50%以下であった。	4	・1学年の生徒全員に刈払機の安全衛生教育を実施し、当日欠席した生徒を除き全員が合格している。 ・また、12月に2年生全員に農業技術検定3級を受験させ10人が合格した。結果を総括し、次年度につなげたい。	・専門的な知識をいろいろな方面から身につけてほしい。 ・資格取得の推進、指導体制を再検討され、資格の合格率の向上に努めてほしい。
事務	○安心して通える学校づくりの推進	・施設・設備の老朽化などに起因する事故の未然防止のため、事務室関係職員による施設設備の定期的な点検を実施する。 ・学校全教職員の日常点検(目視)を習慣化する。	4 日常点検を徹底し、早期補修を行った。 3 日常点検を実施し、一定期間内に補修を行った。 2 日常点検が実施したが、一定期間内に補修ができなかった。 1 日常点検が不十分で早期補修もできなかった。	3	・日常点検を実施し補修の必要性を認めた箇所について、応急対応をするともに、農教委と協議し今年度中に調査業務を実施する。	・施設、設備の不具合等の早急な修理など、日々様々な面に配慮しているのよ。今後も日常点検等、引き続きお願いしたい。 ・安心して通える学校づくりに努めてほしい。
一学年	○基本的な生活習慣の確立	・月別出席統計で各クラス遅刻延べ回数を目標に取り組ませる。	4 遅刻延べ回数が5名以下であった。 3 遅刻延べ回数が10名以下であった。 2 遅刻延べ回数が15名以下であった。 1 遅刻延べ回数が20名以下であった。	2	・2学期から遅刻延べ回数が増え、生活習慣の乱れが見られるので、より一層の指導に努めた。	・1学期には校外(地域)での生活態度の悪い生徒が見受けられたが、その後は多少改善されたように感じる。
	○学習習慣の確立と基礎学力を定着	・基礎学力テスト全員合格を目標にして意欲的に取り組ませる。	4 チェックテストの不合格者が平均5名以下であった。 3 チェックテストの不合格者が平均10名以下であった。 2 チェックテストの不合格者が平均15名以下であった。 1 チェックテストの不合格者が平均20名以下であった。	3	・基礎力タイムの時間を集中して取り組んでおり、チェックテストの教科・内容でバラつきはあるが、不合格者が10名以下である。	・社会に出たら、遅刻・欠席が多い者は信用されない。高校在学中に基本的な生活習慣を身に付け、遅刻・欠席が減少するように指導してほしい。

二 学 年	○基本的な生活習慣の確立	・始業チャイム前の黙想を徹底させる。 ・授業、HR、特別活動など様々な機会にあいさつや礼を徹底させる。 ・生徒指導課と連携して指導の効果を上げる。	4 始業前の黙想が90%以上できた。 3 始業前の黙想が80%以上できた。 2 始業前の黙想が70%以上できた。 1 始業前の黙想の実施が70%未満であった。	3 ・始業前の黙想の実施や授業に真剣に取り組むことができない生徒への個別指導で徐々に授業態度も改善されてきた。 ・授業への取組姿勢に関する指導に重点を置いたため、あいさつ等の礼儀マナーについては十分に指導できなかった。	B ・基本的な生活習慣を身に付け、落ち着いた学校生活ができるように引き続き粘り強く指導をしてほしい。 ・生徒の抱える様々な課題に対し一人ひとり丁寧に対応されている。
	○基礎力タイムの充実による基礎学力の定着	・毎回、課題の達成度をチェックする。 ・開始時間を厳守させる。	4 漢字検定の合格者が60%以上であった。 3 漢字検定の合格者が50%以上であった。 2 漢字検定の合格者が40%以上であった。 1 漢字検定の合格者が30%未満であった。	3 ・漢字検定の実施は2月であるが、課題の達成度チェックは毎回実施できている。 ・開始時間もほぼ厳守できている。	
	○進路目標の明確化	・「総合的な学習の時間」を活用して、進路に関する情報収集に取り組みさせる。 ・インターンシップの事前・事後指導を行う。 ・修学旅行の進路学習を充実させる。	4 80%以上の生徒の進路目標が明確になった。 3 70%の生徒の進路目標が明確になった。 2 60%の生徒の進路目標が明確になった。 1 進路目標が明確になった生徒が60%未満であった。	3 ・総合的な学習の時間の各学習で情報収集はかなり進んでいる。 ・インターンシップは活動状況に差はあったが、まともな学習は充実していた。 ・修学旅行の進路学習は充実させることができた。	
三 学 年	○進路実現	・個別面談を1学期に2回実施し、進路目標を明確にする。 ・達成のための取り組みを考えさせ、実行するよう促す。 ・保護者との緊密な連携 ・学力の向上・定着	4 進路実現が100%であった。 3 進路実現が90%であった。 2 進路実現が80%であった。 1 進路実現が70%であった。	4 ・個別面談を計画的に実施し、保護者との連携も十分に図れた。進路課と連携し、進路実現100%を達成することができた	B ・進路決定100%達成は評価できる。面談時やその他でも先生方の連携が取れてよかったと思う。
	○礼儀・マナーの向上	・好ましいあいさつの励行 ・出席率の向上 ・進路を意識させ、身だしなみの徹底と礼儀を身に付けさせるため、学年教員がどの場面においても共通認識の下、指導にあたる。	4 就職・進学面接等に向けた礼儀・マナーが大幅に向上した。 3 就職・進学面接等に向けた礼儀・マナーが向上した。 2 就職・進学面接等に向けた礼儀・マナーがあまり向上しなかった。 1 就職・進学面接等に向けた礼儀・マナーが全く向上しなかった。	3 ・4月より出席率が向上し、進路を意識した行動がとれるようになってきた。全教職員協力の下、就職・進学面接練習を行い、礼儀・マナーが向上した。卒業に向けても、引き続き指導していきたい。	
業 務 改 善	学校の組織等	・各分掌等の通常業務において、組織的な実践を意識して取り組む。	4 職場の一体化、情報共有がなされ協働体制が80%以上確立された。 3 職場の一体化、情報共有がなされ協働体制が70%以上確立された。 2 職場の一体化、情報共有がなされ協働体制が60%以上確立された。 1 職場の一体化、情報の共有が不十分で、協働体制が60%未満であった。	3 ・関係者が学校の現状に対する共通理解を持ち、教育活動の方向をそろえることができた。職場に一体感があり共通の課題に協働して取り組む意識と体制が構築されつつある。	B ・教職員の健康維持の面からも、業務の効率化、勤務時間の適正化に努めてほしい。
	○組織的な学校運営(職場の一体感)				
	日常的な業務	・職場の整理整頓を基本に、業務のスリム化、仕事の改善を図り、効率的な業務を行う。	4 職場の整理整頓、仕事の改善が80%以上なされた。 3 職場の整理整頓、仕事の改善が70%以上なされた。 2 職場の整理整頓、仕事の改善が60%以上なされた。 1 職場の整理整頓、仕事の改善が60%未満であった。	3 ・業務年間スケジュールを共通様式で作成し、業務の流れの可視化を行った。人事異動等による業務引き継ぎが円滑に行われ業務の効率化が期待できる。	
	○職場の良好な環境づくり				
勤務状況	・時間外業務時間の状況を毎月全教員にフィードバックし、業務の効率化及び業務改善に向けた意識啓発を行う。	4 時間外業務時間が平成28年度に比べ、10%以上減少した。 3 時間外業務時間が平成28年度に比べ、5%以上減少した。 2 時間外業務時間が平成28年度に比べ、5%未満減少した。 1 時間外業務時間が平成28年度に比べ、増加した。	2 ・4月～1月の時間外業務時間の平均は約1%減少に留まっているが、個票の返却により各教員が現状把握することが可能となり、働き方改革・業務改善への意識は高まりつつある。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

<p>[学校運営]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携・地域貢献に積極的に取り組むことで、地域に唯一の高等学校として「地域に愛され地域とともにある学校づくり」を進めることができています。 ・「開かれた学校づくり」を進めることで、地域から学校に対する声(賞賛・気づき・要望等)が届くようになっている。 <p>[学習指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎力タイムの取組は定着したが、生徒たちの基礎学力伸長につながるよう効果的な運営方法を検討する必要がある。 ・無気力な生徒、怠学傾向のある生徒、落ち着いた授業を受けることができない生徒に組織として対応し、日々の授業を充実させる必要がある。(授業改善・生徒の取組状況の詳細な記録蓄積による段階的な指導) <p>[生徒指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学校生活の実現に向けて、全教職員が共通認識のもと課題意識を持って生徒指導に粘り強く当たっており、課題のある生徒も少しずつ状況が改善されてきている。あいさつの励行等、マナー指導についても努めていく。 ・生徒理解に基づく指導を重視し、時間は掛かるが生徒の心に響く生徒指導を目指しており、開発的な生徒指導に努めている。 <p>[進路指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職については大企業を中心にやや苦戦したが、求人が好調であったため、最終的には本人、家族も納得いくかたちで、年内に全員の進路を決定することができた。 ・キャリア教育についてはかなり充実していたが、インターンシップについて、事前指導に力を入れる必要性を痛感した。また資格取得についても、早い段階から啓発をしていきたい。 <p>[健康安全指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診勧告生徒の受診率向上に向けた生徒本人への啓発と家庭への協力依頼を引き続き行っていく必要がある。 <p>[生産流通科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携事業を計画的に進めることができた。校外における生徒の学習機会の拡充につながっている。また、資格取得者の比率も上がっており、生徒の目的意識も向上した。 <p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生においては一部の生徒が落ち着いた学校生活が送れていない状況にあったが、徐々に指導効果がみられた。3年生では進路決定に向けた個別指導により進路の早期決定を果たせた。 <p>[業務改善]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が抱える課題について教職員の共通理解が図れており、組織としての対応ができている。 ・時間外業務時間の削減については、個票の返却により教職員への意識啓発が進むことで徐々に成果が表れてきている。
--

7 次年度への改善策

<p>[学校運営]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度からの分校化(総合学科学設置)を見据え、これまで築いてきた地域連携という西市高校の強みを継承した新しい学校の魅力や方向性を明確にするとともに、積極的に情報発信を行うことで学校教育の活性化を図っていく。 <p>[学習指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導課と連携し、基礎力タイムや確認テストの内容を改善し、基礎学力の向上並びに学習習慣の確立を図る。また、教員相互の授業参観、研修等により授業改善を積極的に行う。 <p>[生徒指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の共通認識を深め、一貫した指導体制を確立し、継続して一人ひとりを大切に生徒指導を図る。問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努め、保護者、地域に信頼される生徒指導を行う。また、研修等とおして、情報モラル、教育相談、発達障害等の特別支援教育の理解と促進を図り、教職員の資質を高める。 <p>[進路指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職試験突破レベルを目指して基礎力タイムの改善を行い、計画的に基礎学力養成を図る。また、資格取得率の向上や、大学進学希望者等に対する課外を充実させる。 ・低学年のうちから個人面談、進路ガイダンス、インターンシップ、講演等を計画的に実施し、キャリア教育の視点から進路実現につなげる。 <p>[健康安全環境]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内美化や健康・安全・環境能力の醸成のため、委員会活動をさらに充実させる。治癒勧告については、今後も保護者と連携し、生徒の健康安全に向けて指導の徹底を図る。 <p>[生産流通科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した特産物の開発を継続して行うなど、地域や関係機関等と連携した教育活動を実施する。生徒の実践力を高め、地域と連携し、地域農業の理解や地域貢献を念頭に置いた教育内容を充実するとともに、それらを全国産業教育フェア山口大会などで全国に発信する。また、進路と連携させて、資格取得の向上を図り、アグリマイスターや県高等学校等職業教育技術顕彰認定者を増やす。 <p>[業務改善]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な業務における整理整頓、業務ノウハウの蓄積、業務年間スケジュールの可視化等により業務の効率化を図る。業務のスリム化を進め、時間外業務の時間数の削減に努める。
